

(ル) 従来から、組織方針が明確に示されてゐなかつたため、組合の組織と党の組織とが明確に区別されず、たとへば、何千人かの労働組合なり農民組合なりが、政党支持を決議すれば、その労働組合なり、農民組合なりの全組合員をそのまま、莫然と党員と考へ、日党員何万と稱して我々の得意がなつてゐた。そして、組合とは獨立の——組合の中へ強固な根をもつた——党の組織が確立されなかつた。

(エ) したがつて、一般労働大衆の多くは、単に党員だといふ莫然たる意識のもとに、党の機関紙を讀んだり、支部のニュースを讀んだり、何れの場合に党の動員計画に應じたり、するといつたやうな、極めて若極幼な極めて受身の活動を續けて来たに過ぎなかつた。

(カ) かつて莫然たる組織の當否の結果として、党の強固なる下部組織へは、容易に確立されずに終つた。そのために、党の地方組織は、僅かの少数幹部の勤務におつて危殆動搖した。たとへば、党支部の二三幹部が労働政党政反対といつたやうな意見を表明すれば、忽ち、当該支部の一般労働大衆と党との關係は一應は断たれて了ふ(一般労働者が党を支持してゐる組合でも)といつたやうな不自然な現象が生じて来た。かゝる傾向は、たしかに、党の従来の組織方針の缺陷を現はしてゐるものである。

(キ) 以上に述べたやうな、従来のルーズな組織方針の結果として、党は

、その政治的任務を充分に果すことを得なかつた。そしてそのゆゑに、一般大衆は、組合さへあれば党は入りなないといふもしくは、党さへあれば組合は入りなないといふやうな向違つた考えを惹き出して抱くやうになつた。

(ク) 更に又、全組合員をそのまま、党に組織するといふやうな方針は、財政的負擔能力の上から行つても不可能である。一般大衆に組合費と党費とを納入せしめることが如何に困難なことであるかは幾々が長い間の経験を通じて、知り過ぎる程知つて来たことである。

(ケ) だが、組合の中の政治意識の高いものを党へ組織するやうな方針をとれば、それらの党員をして、組合費のほか、党費を更善し、党を確立すること加増的労働者農民の執務だといふことをハッキリと理解せしめることは極めて容易であり、従つて、党の財政的基礎も確立するやうになる。

(コ) しかし、新組織方針によつて党を再編成するならば、党が要する所然小少くなる、といふことを認める人々があるかも知れない。だが、もし五十人のプロレタリアが組織されてゐるならば、千人の組合を、一